



(参考仮訳)

プレスリリース No. 09/441  
即時解禁  
2009年12月3日

国際通貨基金 (IMF)  
米国・ワシントン DC

### IMF、危機後の世界経済及び国際通貨制度の強化を目指す

国際通貨基金 (IMF) は、IMF の責務・権限、融資機関としての役割、マルチラテラル・サーベイランス (多国間政策監視) 及びガバナンスの4分野の改革を掲げたイスタンブールでの決議を推進することにより、回復しつつある世界経済を政策助言を通じて下支えすると共に危機後の世界経済をより強固なものとするべく引き続き尽力する。IMF 理事会はその目標達成に向けたワークプログラムに関し、以下概要に示す通り協議を行った。

ドミニク・ストロスカーン IMF 専務理事は、ワークプログラムに関する協議の中で理事会に対し、「IMF は様々な革新的な対策を講じることで危機に対応してきた。しかし IMF の公式な権限・責務は、世界のマクロ金融の安定の実効的な監視役として現在我々に求められていることを、全て網羅しているとは言えない」と指摘した。さらに「同ワークプログラムは、野心的だが達成可能であり、且つ不可欠である。我々に課せられた困難な任務の遂行に必要な能力を IMF が有していることが、加盟国の危機対応への支援において不可欠であり、我々はこのモメンタムを維持しなければならない」と述べた。

#### 危機後の世界経済

##### 出口戦略

IMF 加盟国は、経済への政策支援について経済回復が更に軌道に乗るまで継続すると共に、出口戦略に関する情報を共有し実施に関しては連携することで合意している。このコミットメントの実現に向け、IMF は、緩和的な金融・財政政策並びに金融部門に対する政策の解消を含む出口戦略の徹底した検証を行っている。同作業では、各国がマクロ経済及び金融の安定促進に向け危機関連プログラムを解消し、従来の成長モデル及び政策枠組みを再構築する過程で直面する様々な困難やトレードオフを想定した現実的な考察が行われる。

## 国際金融システム

### 国際通貨制度の強化

IMF の権限・責務を再検討するにあたり、サーベイランス、融資、国際通貨制度の機能のあり方など、今日の世界において IMF に求められている事項の大枠が提示される。また適切な IMF 財源の規模、及び拠出金（クォータ）と借り入れ金の構成比に関する考察も行う。さらに IMF の融資機関としての役割、及び加盟国が自己保険または過度の外貨準備積み上げに頼らずにすむよう IMF が融資制度を拡充する点についても議論する。またこの際、適切なセーフガードを維持しつつ、金融市場の変動に対処する加盟国への支援能力を強化するため、フレキシブル・クレジットライン（FCL）及びハイ・アクセス・プレコナリ・アレンジメント（HAPA）などの資金を今後どう活用するかについて評価を行う。理事会は、国際通貨制度の不安定要因、及び外貨準備の構成内容の多様化についても検証する。また経済サーベイランスの手法に関する見直しも行う。

### IMF 政策助言の強化

20 カ国グループ（G20）が「強固で持続可能かつ均衡ある成長のための枠組み」の実施に対し IMF へ支援を要請したことで、システム上最も重要な加盟国への IMF サーベイランスの影響が高まることが期待される。理事会は G20 の相互評価における IMF の役割の基礎となる枠組みと作業過程に関し協議を行う。また、経済規模に比べ巨大な金融部門を有する国の政策、及び新興市場国・地域がこれまでに行った危機対策など、世界的な課題について引き続き検証を行う。

### クォータ及びガバナンス改革

国際通貨金融委員会（IMFC）は理事会に対し、活発な経済活動をみせる新興国並びに途上国に、クォータ（出資割当額）を移行させるとするクォータ改革を、目標の 2011 年の 1 月までに達成するよう要請した。同改革は、最貧国の議決権シェアを維持しながら、作業の第一段階として現行のクォータ計算式を活用して、シェアが過大評価されている国々から過小評価されている国々へ、少なくとも 5% 移行させるとしたものだ。

さらに IMF は、専務理事など IMF マネジメントの選定プロセスをより透明で開かれたものとするなど、ガバナンス改革に継続して取り組むとしている。なお筆頭理事が理事会作業グループを組織し指揮している。

### 低所得国に関するアジェンダ

IMF は、金の売却を実施するなど新規歳入モデルの完全実施に向け前進していると共に、既に合意されている譲許的融資能力の倍増を支える、融資並びに補助金財源の拠出を求めている。

危機に伴う最脆弱国のニーズへの更なる対応として、IMFは低所得国において成長を支えマクロ経済及び金融の安定を確保しつつ債務の持続性を維持するために、どういった危機後の政策が軌道修正を要するか検証する。

ストロスカーン氏は「この度のワークプログラムは、先般我々がやり遂げた課題と同様に野心的且つ困難なものである。しかし私はIMFがこの難題を乗り越えることができる」と確信している」と述べた。